子供及び教員を対象とした意識調査を通した帰属意識等に関する調査研究
―子供の帰属意識とアイデンティティ確立の相関及び教員の意識に視点を当てて―

野村　宏行（東大和市立第八小学校）

１．研究の目的

グローバル化の進展により、喫緊の教育課題の一つとして挙げられていることが日本人としてのアイデンティティの育成である。本研究は自分自身のアイデンティティ確立と地域社会、我が国等における日本人としてのアイデンティティ確立の結び付きに着目し、その相関等を調査したものである。

なお、日本人としてのアイデンティティについては、中央教育審議会「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方についての中間報告（平成 14 年 11 月 14 日）」が示す「伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心をもつ」ことを基軸に考えた。さらに「共に生きる人々を大切にする心」の視点を加えた「我が国の伝統と文化を尊重する心」「我が国や郷土、共に生きる人々を大切にする心」の両面を育成することを、日本人としてのアイデンティティ育成として、本研究では定義している。また、そのような多層的なアイデンティティを育成するための意識を、教師がどのようにもっているのかも合わせて分析している。子供の実態把握と教師の意識を合わせて調査することで、日本人としてのアイデンティティを育成するための学習に重要な視点を見出すことが、本調査研究の目的である。

２．調査研究の方法と内容

本研究においては、H 市の子供、教員を対象とした調査を行った。H 市は集合住宅の開発が進み、転居してくる住民が多くなっている。以前からの住人と、新たな住人が混在する H 市を調査することで、郷土への思いや意識等が広く表されると考え、H 市を調査対象とした。

（1）子供を対象とした調査

自分自身のアイデンティティ確立と、集団の中で確立するアイデンティティの相関や、我が国に関する学習の意識などを調べるために、子供への調査を行った。対象学年は H 市立五校の小学校第２学年と第５学年である。設問とその意図は表１に示している。

表１：子供への調査項目及びその意図

設問	設問の意図
1 あなたの性別を教えてください。	
2 あなたは、自分のことが好きですか。 3 あなたは、自分のよいところを知っていますか。 4 あなたは、自分が大切な人だと思いますか。	自尊感情の高まりを調査した。この自尊感情が、社会との関わりとどのよう相関があるかを、以下の質問で調査している。
5 あなたは、家族から大切にされていると思いますか。 6 あなたは、近くの人（近所の人や知り合いの人など）から大切にされていると思いますか。	身近な集団に大切にされていると思うかを調査した。
7 あなたはふだん、「自分は**H市**の子どもだなあ」と思うことはありますか。 8 あなたはふだん、「自分は**日本**の子どもだなあ」と思うことはありますか。	郷土や我が国への帰属意識を調査した。
9 あなたは、外国に行ってみたり、外国の人と友達になってみたりしたいと思いますか。	外国への興味関心と、交流の意識を調査した。
10 あなたは、H市や日本の伝統と文化（礼儀や作法、心がけなど）は、大切に残していった方がよいと思いますか。	郷土や我が国の伝統と文化を尊重したいと考えるかを調査した。
11 あなたは、H市や日本の伝統と文化を、学校で勉強したいと思いますか。	郷土や我が国の伝統と文化への学習の意欲を調査した。
12 あなたは、自分が生きている場所（H市や日本）や、そこでいっしょに生きているたちのことを、大切にしたいと思いますか。	我が国や郷土及び共に生きる人々を愛する気持ちをもっているかを調査した。
13 あなたは、自分が生きている場所（H市や日本）や、そこでいっしょに生きているたちのことを、学校で勉強したいと思いますか。	我が国や郷土及び共に生きる人々に対する学習意欲を調査した。
14 あなたは、H市のどんなところが好きですか。 思いつくものを３つまで、書いてください。 ※１つや２つでもよいです。思いつかないときは、書かなくてもよいです。 15 あなたは日本の、どんなところが好きですか。 思いつくものを３つまで、書いてください。 ※１つや２つでもよいです。思いつかないときは、書かなくてもよいです。	それぞれ郷土、我が国の好きなものとことを、３つまでの自由記述で調査した。

（2）教員を対象とした調査

教員に対しては、「伝統と文化を尊重する心」と「我が国や郷土、共に生きる人々を大切にする心」に関する学習をどのように進めているかを調査した。対象は、H 市立小学校の全教員である。設問とその意図は表２に示している。

３．調査の結果及び分析

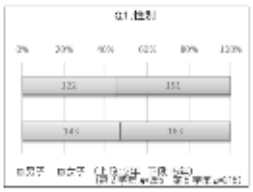
調査は平成 26 年 10 月 1 日から同年 10 月 17 日まで行った。調査方法は、子供は第２学年及び第５学年に対して、10 校中４校抽出で行った。教員に対しては、全 10 校の教員に調査を行った。いずれも質問紙形式で、各校長の許可の元、副校長を通じて調査学級の担任を含む H 市の全教員に調査を行った。

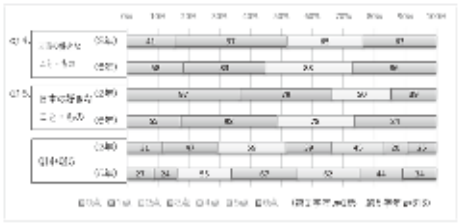
(1) 子供を対象とした調査の結果

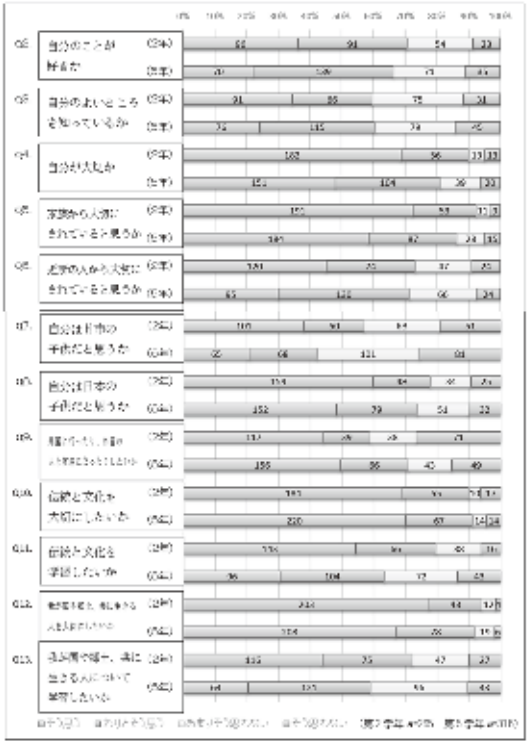
第２学年 265 名、第５学年 316 名、計 581 名の回答があり、以下のような結果が得られた。（図１）これらの結果を踏まえて、相関や差の分析を行った。なお、分析に関しては山田剛史、村井潤一郎「よくわかる心理統計」（ミネルヴァ書房、2004）及び山田光哉「心理・教育のための統計法〈第３版〉」（サイエンス社、2009）を参考にした。

表２：教員への調査項目及びその意図

設問	設問の意図
1 性別と年代に○をおつけください。	担当を調査した。
2 H市の伝統と文化を尊重する心を、子供たちに育てることは、大切だと思いますか。	郷土の伝統と文化を尊重する心を育てることの重要性を、どの程度認識しているかを調査した。
3 日本の伝統と文化を尊重する心を、子供たちに育てることは、大切だと思いますか。	我が国の伝統と文化を尊重する心を育てることの重要性を、どの程度認識しているかを調査した。
4 H市の伝統と文化を尊重する心を、子供たちに育てるために、意識をして教育活動に取り組んでいますか。	郷土の伝統と文化を尊重する心を育てる教育活動の実践についての意識を調査した。
5 日本の伝統と文化を尊重する心を、子供たちに育てるために、意識をして教育活動に取り組んでいますか。	我が国の伝統と文化を尊重する心を育てる教育活動の実践についての意識を調査した。
6 伝統と文化を尊重する心を、子供たちに育てる教育には、どのような意義があると考えますか。特に強く思う理由を、３つ以内で○をつけてください。 1．日本文化の維持、発展につながる　2．グローバル社会へ対応できる 3．憲法、教育基本法などの法令の徹底　4．学習指導要領の徹底 5．地域社会を発展させる　6．少子高齢化、過疎化への対策になる 7．自己が確立される　8．日本人としての意識が育つ　9．社会参画意識が育つ 10．その他（　　） 11．特にない　※11．に○を付けた場合は、他には○はつけないよう、お願いいたします。 註．その理由、おりましたら記入ください（理由　　）	伝統と文化を尊重する心を育てる根拠を調査した。
7 伝統と文化を尊重する心は、どの教科などで子供たちに教えられると考えますか。当てはまるものの全てに○をつけてください。 1．国語　2．社会　3．算数　4．理科　5．生活　6．音楽　7．図工　8．家庭　9．体育 10．道徳　11．総合的な学習の時間　12．外国語活動　13．特別活動 14．特にない　※14．に○を付けた場合は、他には○はつけないよう、お願いいたします。	それらはどの教科等で教育できるかを問い、教師がどの程度伝統と文化を尊重する心に関する教育の内容を認識しているかを調査した。
8 伝統と文化を尊重する心を子供たちに育てるために、工夫している教育活動はありますか。ありましたらその内容をご記入ください。	伝統と文化を尊重する心を育てるために、特に意識していることを自由記述で調査した。
9 郷土としてのH市や、身近な人々を愛する心を、子供たちに育てることは、大切だと思いますか。	郷土や共に生きる人々を大切にする心の育成の重要性について調査した。
10 我が国や、日本で生きる人々（外国人を含む）を愛する心を、子供たちに育てることは、大切だと思いますか。	我が国と共に生きる人々を大切にする心の育成の重要性について調査した。
11 郷土としてのH市や身近な人々を愛する心を、子供たちに育てるために、意識をして教育活動に取り組んでいますか。	郷土や共に生きる人々を大切にする心を育てる教育活動の実践についての意識を調査した。
12 我が国や、日本で生きる人々（外国人を含む）を愛する心を、子供たちに育てるために、意識して教育活動に取り組んでいますか。	我が国や共に生きる人々を大切にする心を育てる教育活動の実践についての意識を調査した。
13 我が国や郷土、日本で生きる人々を愛する心を、子供たちに育てる教育には、どのような意義があると考えますか。特に強く思う理由を、３つ以内で○をつけてください。 1．日本文化の維持、発展につながる　2．グローバル社会へ対応できる 3．憲法、教育基本法などの法例の徹底　4．学習指導要領の徹底 5．地域社会を発展させる　6．少子高齢化、過疎化への対策になる 7．自己が確立される　8．日本人としての意識が育つ　9．社会参画意識が育つ 10．その他（　　） 11．特にない　※11．に○を付けた場合は、他には○はつけないよう、お願いいたします。 註．その理由、おりましたら記入ください（理由　　）	我が国や郷土、共に生きる人々を愛する心を育てることの根拠を調査した。
14 我が国や郷土、日本で生きる人々を愛する心は、どの教科などで子供たちに教えられると考えますか。当てはまるものの全てに○をつけてください。 1．国語　2．社会　3．算数　4．理科　5．生活　6．音楽　7．図工　8．家庭　9．体育 10．道徳　11．総合的な学習の時間　12．外国語活動　13．特別活動 14．特にない　※14．に○を付けた場合は、他には○はつけないよう、お願いいたします。	それらはどの教科等で教育できるかを問い、教師がどの程度我が国や郷土、共に生きる人々を愛する心を育てることに関する教育の内容を認識しているかを調査した。
15 我が国や郷土、日本で生きる人々を愛する心を、子供たちに育てるために、工夫している教育活動はありますか。ありましたらその内容をご記入ください。	我が国や郷土、共に生きる人々を愛する心を育てるために、特に意識していることを調査した。







※q14,15 に関しては、子供の記述から、適切と判断できるものを得点として集計した。
（例：未記入、もしくは不適切な回答の場合は０点、３つ適切に記入していたら３点）

図１：子供を対象とした調査の結果

(2) 子供を対象とした調査の結果の分析

(i) 自尊感情と所属意識の関係

子供の自尊感情と所属意識の関係を見るために、相関分析を行った。第２学年においては「自分が好きか」と「家族から大切にされていると思うか」及び「近所から大切にされていると思うか」には弱い相関が認められた。

同様に「自分のよさを知っているか」と「家族から大切にされていると思うか」及び「近所から大切にされていると思うか」にも弱い相関が認められた。

さらに「自分が大切か」と「家族から大切にされていると思うか」にも弱い相関が認められた。（表３）また、以降**で示した相関係数は、１％水準で有意（両側）であることを示している。

表３：第２学年における自尊感情と所属意識の相関分析

相関分析	家族から大切にされていると思うか	近所から大切にされていると思うか
自分が好きか	.264**	.229**
自分のよさを知っているか	.252**	.263**
自分が大切か	.339**	

第５学年においては「自分が好きか」と「家族から大切にされていると思うか」に相関が、「自分が好きか」と「近所から大切にされていると思うか」には弱い相関が認められた。

「自分のよさを知っているか」と「家族から大切にされていると思うか」には弱い相関が、「自分のよさを知っているか」と「近所から大切にされていると思うか」には相関が認められた。

さらに「自分が大切か」と「家族から大切にされていると思うか」及び「近所から大切にされていると思うか」において相関が認められた。（表４）

表４：第５学年における自尊感情と所属意識の相関分析①

相関分析	家族から大切にされていると思うか	近所から大切にされていると思うか
自分が好きか	.407**	.387**
自分のよさを知っているか	.333**	.465**
自分が大切か	.513**	.465**

また、第５学年においては自尊感情に関する「自分が好きか」と所属意識に関する「日本の子供だと思うか」には弱い相関が認められた。

さらに、「自分のよさを知っているか」と「H 市の子供だと思うか」及び「自分のよさを知っているか」と「日本の子供だと思うか」にも弱い相関が認められた。（表５）

表５：第５学年における自尊感情と所属意識の相関分析②

相関分析	H 市の子供だと思うか	日本の子供だと思うか
自分が好きか		.249**
自分のよさを知っているか	.225**	.259**

この結果から、家族や地域から大切にされているなどの自覚や、郷土や我が国への所属意識が、自尊感情の醸成に寄与していることが考えられる。また第５学年の方が相関がよ

り強く認められることから、発達の段階が進み、社会への理解や意識が深まるにしたがって、より自尊感情と所属意識の高まりの関連が密になっていくことが伺えた。

（ii）自尊感情と日本人としてのアイデンティティに関係する意識について

第２学年において自尊感情に関係する「自分が大切か」と、日本人としてのアイデンティティに関係する四項目の相関を見ると、「伝統と文化は大切か」「伝統と文化を学びたいか」「郷土や人は大切か」「郷土や人を学びたいか」にそれぞれ弱い相関が認められた。（表６）

表６：第２学年における自尊感情と日本人としてのアイデンティティに関係する意識の相関分析

相関分析	伝統と文化は大切か	伝統と文化を学びたいか	郷土や人は大切か	郷土や人を学びたいか
自分が大切か	.287**	.267**	.228**	.283**

第５学年で同項目の相関を見てみると、第２学年と比較して、より強い相関が認められた。（表７）

表７：第５学年における自尊感情と日本人としてのアイデンティティに関係する意識の相関分析

相関分析	伝統と文化は大切か	伝統と文化を学びたいか	郷土や人は大切か	郷土や人を学びたいか
自分が大切か	.311**	.347**	.385**	.211**

さらに第５学年においては、外国への意識を表す「外国に行ったり、外国人と友達になったりたりしたいか」と自尊感情を表す項目との相関分析では、「自分が好きか」「自分のよさを知っているか」「自分が大切か」と、それぞれ弱い相関が認められた。（表８）

表８：第５学年における外国への意識と自尊感情の相関分析

相関分析	自分が好きか	自分のよさを知っているか	自分が大切か
外国へ行ったり、外国人と友達になったりしたいか	.209**	.217**	.245**

同様に、「外国に行ったり、外国人と友達になったりたりしたいか」と日本人としてのアイデンティティに関係する意識の四項目の相関では、「伝統と文化は大切か」、「伝統と文化を学びたいか」「郷土や人は大切か」「郷土や人を学びたいか」にそれぞれ弱い相関が認められた。（表９）

表９：第５学年における外国への意識と日本人としてのアイデンティティに関係する意識の相関分析

相関分析	伝統と文化は大切か	伝統と文化を学びたいか	郷土や人は大切か	郷土や人を学びたいか
外国へ行ったり、外国人と友達になったりしたいか	.214**	.312**	.233**	.234**

これらの結果から、自尊感情と日本人としてのアイデンティティは相互に関わり合って高まっていくことが考えられる。また、学年が上がると、自尊感情と日本人としてのアイ

デンティティに、外国への意識も関わって高まることも読み取れる。

（iii）伝統と文化を尊重する心と我が国や郷土、共に生きる人々を愛する心について

第２学年においては、「伝統と文化は大切か」と「伝統と文化を学びたいか」には弱い相関が認められた。（表 10－１）同様に「郷土や人は大切か」と「郷土や人を学びたいか」にも弱い相関が認められた。（表 10－２）また、「伝統と文化を学びたいか」と「郷土や人を学びたいか」には相関が認められた。（表 10－３）

表８：第２学年における伝統と文化を尊重する心と我が国や郷土、共に生きる人々を愛する心に関係する意識の相関分析

【10－１伝統と文化の大切さと学ぶ意欲（第２学年）】

相関分析	伝統と文化を学びたいか
伝統と文化は大切か	.323**

【10－２郷土や人の大切さと学ぶ意欲（第２学年）】

相関分析	郷土や人を学びたいか
郷土や人は大切か	.287**

【10－３伝統と文化と、郷土や人への思いの関係（第２学年）】

相関分析	郷土や人を学びたいか
伝統と文化を学びたいか	.486**

この傾向は学年が上がるとさらに強まり、第５学年における同項目の調査では、「伝統と文化は大切か」と「伝統と文化を学びたいか」には相関が認められた。（表 11－１）同様に「郷土や人は大切か」と「郷土や人を学びたいか」にも弱い相関が認められた。（表 11－２）また、「伝統と文化を学びたいか」と「郷土や人を学びたいか」には相関が認められた。（表 11－３）

表１１：第５学年における伝統と文化を尊重する心と我が国や郷土、共に生きる人々を愛する心に関係する意識の相関分析

【11－１伝統と文化の大切さと学ぶ意欲（第５学年）】

相関分析	伝統と文化を学びたいか
伝統と文化は大切か	.405**

【11－２郷土や人の大切さと学ぶ意欲（第５学年）】

相関分析	郷土や人を学びたいか
郷土や人は大切か	.296**

【11－３伝統と文化と、郷土や人への思いの関係（第５学年）】

相関分析	郷土や人を学びたいか
伝統と文化を学びたいか	.542**

これらの結果から、伝統と文化及び、郷土と共に生きる人々を大切にしようと思える子

供ほどそれらに関連する学習に対する意欲が高いことや、伝統と文化を尊重する心と郷土と共に生きる人々を愛する心には、つながりがあることが読みとれた。

（iv）郷土と我が国への所属意識及び外国への意識について

第２学年第及び５学年において「自分はH市の子供だと思うか」と「自分は日本の子供だと思うか」の結果を比較すると、子供はH市よりも日本の子供であるという意識が強いことが伺えた。

そこで「そう思う、わりとそう思う、あまりそう思わない、そう思わない」の回答を、それぞれ１点、２点、３点、４点として、その平均点を比較した。結果、H市への所属意識の平均点は、2.242であり、我が国への所属意識は1.718であった。その差は0.524であり、平均点が低いほど、所属意識が高くなる。この結果に差があるかどうかについてT検定をしたところ、有意な結果が見られた。（表12）

表12：第２学年におけるHと日本への所属意識の差の検定

差の検定	平均値	差	有意確率（両側）
H市の子供だと思うか	2.242	0.524	0.00
日本の子供だと思うか	1.718		

同様に第５学年の比較を行うと、H市への所属意識の平均点は、2.629であり、我が国への所属意識は1.882、その差は0.747であった。この結果に差があるかどうかについてT検定をしたところ、有意な差が認められた。（表13）

表13：第５学年におけるHと日本への所属意識の差の検定

差の検定	平均値	差	有意確率（両側）
Hの子供だと思うか	2.629	0.747	0.00
日本の子供だと思うか	1.882		

ここから、子供にとっては郷土であるH市への所属意識より、我が国への所属意識の方が強いことが考えられる。これは、生活の中で子供たちの目にふれる事柄が、H市より日本の方が多いことがその理由の一つであろう。

また､H市への所属意識は第２学年から第５学年になると下がっている様子が見られる。

そこで同様にH市に対する第２学年と第５学年の所属意識の平均点を比較すると､第２学年は2.242であり、第５年2.629、差は-0.387であった。T検定を用いて差の検定をすると、有意な差が認められた。（表14）

表14：第２学年と第５学年におけるH市への所属意識の差の検定

差の検定	平均値	差	有意確率（両側）
第２学年	2.242	-0.387	0.00
第５学年	2.629		

また、我が国に対する第２学年と第５学年の所属意識の平均点を比較すると、第２学年は1.718であり、第５学年は1.882、差は-0.091であった。T検定を用いて差の検定をすると、有意な差は認められなかった。

これらの結果から、H市への所属意識は学年が上がるにつれて下がる傾向があることが考えられる。また、我が国への所属意識は、H市に比較すると高い水準で維持され、学年が上がっても大きな変容が見られないことが伺える。

外国への意識に関しても、第２学年から第５学年に上がるにつれて、意識が高まっているように見られた。そこで同様に、第２学年と第５学年の外国への意識に関する平均点を比較すると、第２学年は 2.238 であり、第５年は 1.952、差は-0.286 であった。T 検定を用いて差の検定をすると、有意な差が認められた。（表 15）

表 15：第２学年と第５学年における外国への意識の差の検定

差の検定	平均値	差	有意確率（両側）
第２学年	2.238	-0.286	0.05
第５学年	1.952		

学年が上がるにつれて、H 市の子供であるという意識が下がり、日本の子供としての意識は比較的高く維持されることについてはいくつかの理由が考えられる。大きなものとしては、学校での学習の機会の差が挙げられる。低学年では生活科を中心に地域への学習を多く行うのに対して、高学年になると社会科を中心に我が国全体などへの学習になっていく。学習したことが子供に根付くからこそ、この差が生まれるとも考えられる。また、発達の段階が進むにつれて子供の社会への理解が深まることも、この差の一因であろう。社会への理解を深めることで、我が国や外国への関心が高まっていくのだと考えられる。

（3）教員を対象とした調査の結果

教員からは 141 名の回答を得た。（図２～４）

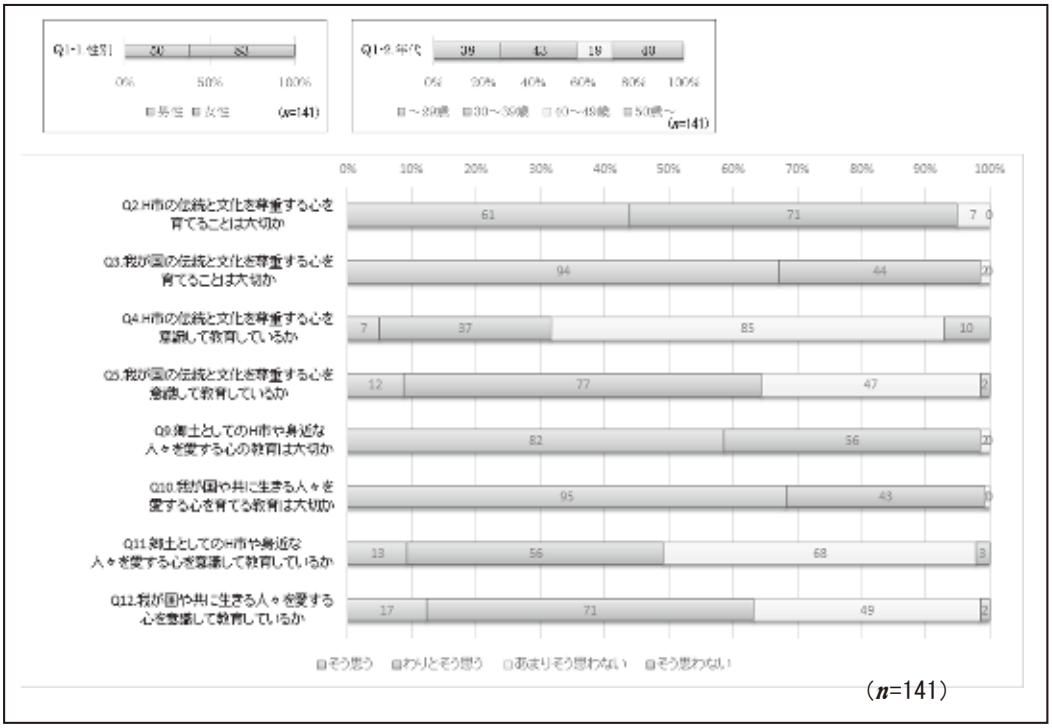


図２：教員を対象とした調査の結果（日本人としてのアイデンティティ育成について）

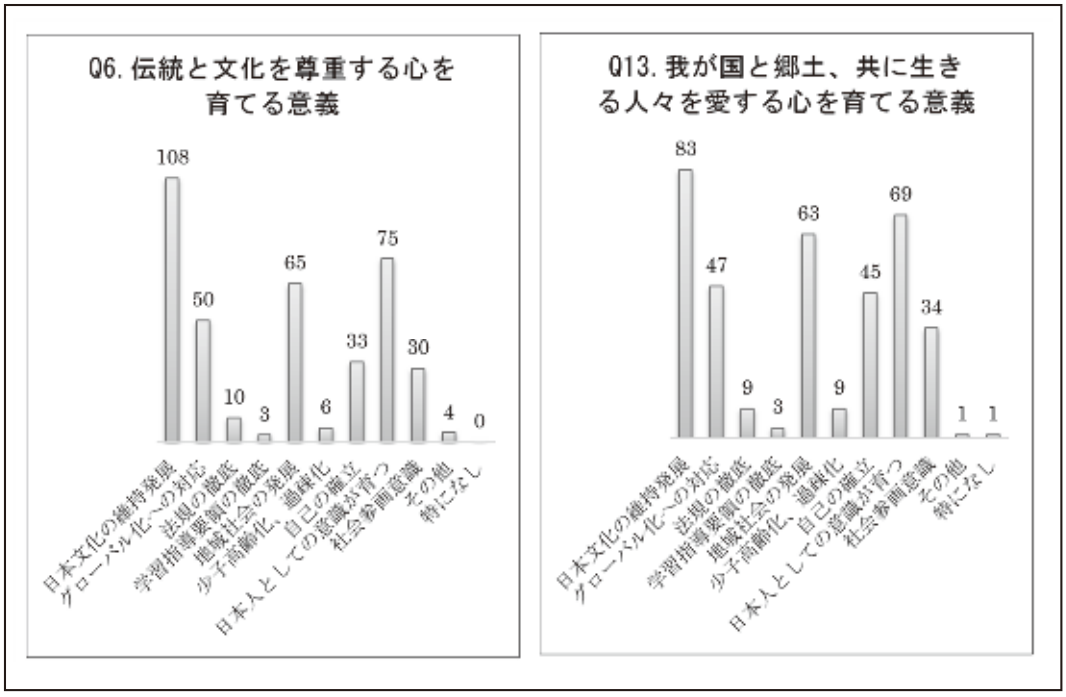


図３：教員を対象とした調査の結果（日本人としてのアイデンティティ育成の意義）

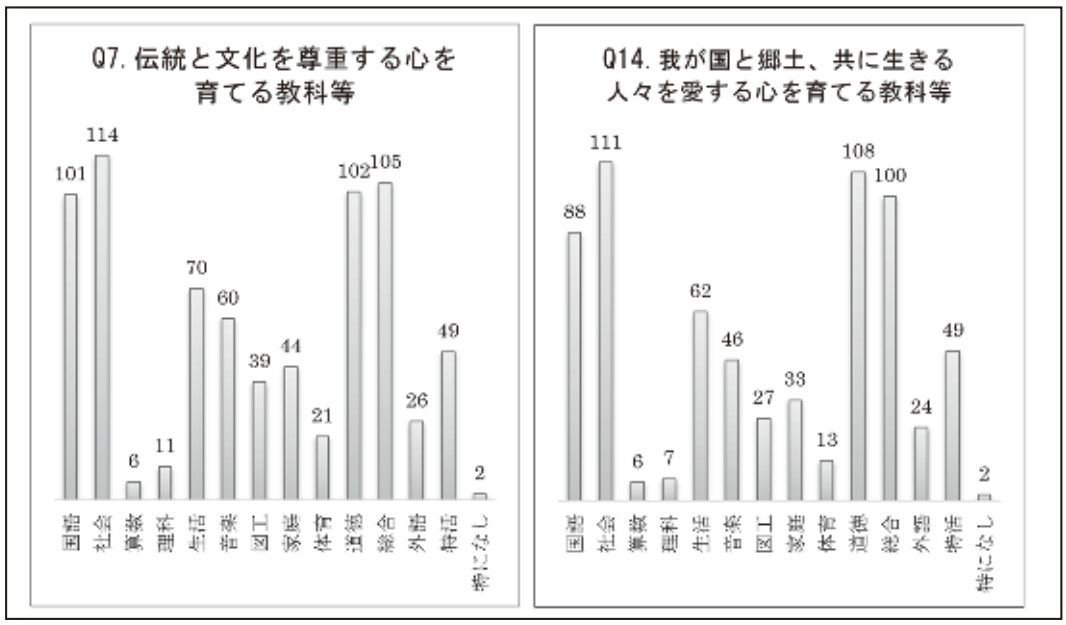


図４：教員を対象とした調査の結果（日本人としてのアイデンティティ育成を育成する教科等）

（4）教員を対象とした調査の結果の分析

これらの結果を、クロス集計で分析すると、以下のような結果が見られた。

（i）日本人としてのアイデンティティ育成に関する重要性の認識と意識の差

日本人としてのアイデンティティ育成（伝統と文化を尊重する心と、我が国や郷土、共に生きる人々を愛する心の育成）の重要性に関しては、多くの教員が認識しているようだった。一方、実際の指導で意識しているかどうかの項目では、相対的に低い結果が見られた。

そこで、日本人としてのアイデンティティ育成の重要性の認識と、実践への意識の関係を調べるために、クロス集計を行った。

まずはH市の伝統と文化を尊重する心を育成することの重要性の認識と、実践への意識をクロス集計した。結果、「H 市の伝統と文化を尊重する心を育てることは大切であると思うか」の質問に「そう思う」「わりとそう思う」と、肯定的な回答を示している教員も、「その実践を意識しているか」という質問には「あまりそう思わない」「そう思わない」と、否定的な回答をしている割合が60%を超えていた。(表16)

表16：H市の伝統と文化を尊重する心の育成について
〔大切さの認識　×　実践への意識〕

		合計（実数）	H市の伝統と文化を尊重する心を育てることを意識しているか			
			そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
合計		100.0(138)	5.1	26.1	61.6	7.2
H 市の伝統と文化を尊重する心を育てることは大切か	そう思う	100.0(61)	11.5	27.9	55.7	4.9
	わりとそう思う	100.0(70)	0.0	27.1	62.9	10.0
	あまりそう思わない	100.0(7)	0.0	0.0	100.0	0.0

同様に、我が国の伝統と文化を尊重する心の育成の大切さの認識と、実践への意識をクロス集計した。H市の伝統と文化に関する項目に比較すると、実践への意識は相対的に高い数値を示している。「我が国の伝統と文化を尊重する心を育てることは大切であると思うか」の質問に「そう思う」と回答をしている教員は、「その実践を意識しているか」という質問には「あまりそう思わない」「そう思わない」と、否定的な回答をしている割合が30%を下回っていた。しかし「わりとそう思う」と回答した教員を見ると、否定的な回答が45%を超えるなど、数値としてはまだ実践に移すことができていない実態があった。(表17)

表17：我が国の伝統と文化を尊重する心の育成について
〔大切さの認識　×　実践への意識〕

		合計（実数）	我が国の伝統と文化を尊重する心を育てることを意識しているか			
			そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
合計		100.0(138)	8.7	55.8	34.1	1.4
我が国の伝統と文化を尊重する心を育てることは大切か	そう思う	100.0(94)	12.8	57.4	28.7	1.1
	わりとそう思う	100.0(43)	0.0	53.5	44.2	2.3
	あまりそう思わない	100.0(1)	0.0	0.0	100.0	0.0

次は、郷土としてのH市や身近に生きる人々を愛する心の育成の重要性と、実践への意識をクロス集計した。「郷土としてのH市や身近に生きる人々を愛する心を育てることは

大切であると思うか」の質問に「そう思う」と回答している教員も、「その実践を意識しているか」と意識を問うた質問には、40%以上にあたる教員が「あまりそう思わない」、「そう思わない」と否定的な回答をしていた。同様に、その教育の大切さについて「わりとそう思う」と回答した教員は、実践への意識については 60%以上が否定的な回答をしていた。（表 18）

表 18：郷土としてのＨ市や、身近な人々を愛する心の育成について
〔大切さの認識　×　実践への意識〕

		合計（実数）	郷土としてのＨ市や、身近に生きる人々を愛する心を育てることを意識しているか			
			そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
合計		100.0(140)	9.3	40.0	48.6	2.1
郷土としてのＨ市や、身近に生きる人々を愛する心を育てることは大切か	そう思う	100.0(82)	14.6	43.9	40.2	1.2
	わりとそう思う	100.0(56)	1.8	35.7	58.9	3.6
	あまりそう思わない	100.0(2)	0.0	0.0	100.0	0.0

続いて、我が国や共に生きる人々を愛する心の育成の重要性と、実践への意識をクロス集計した。「我が国や共に生きる人々を愛する心を育てることは大切であると思うか」の質問に「そう思う」と回答している教員は、「その実践を意識しているか」と意識化を問うた質問には、30%弱程度にあたる教員が「あまりそう思わない」、「そう思わない」と否定的な回答をしていた。同様に、その教育の大切さについて「わりとそう思う」と回答した教員は、実践への意識については 50%以上が否定的な回答をしていた。（表 19）

表 19：我が国や共に生きる人々を愛する心の育成について
〔大切さの認識　×　実践への意識〕

		合計（実数）	我が国や共に生きる人々を愛する心を育てることを意識しているか			
			そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
合計		100.0(139)	12.2	51.1	35.3	1.4
我が国や共に生きる人々を愛する心を育てることは大切か	そう思う	100.0(95)	17.9	53.7	28.4	0.0
	わりとそう思う	100.0(43)	0.0	46.5	48.8	4.7
	あまりそう思わない	100.0(1)	0.0	0.0	100.0	0.0

これらの結果により、日本人としてのアイデンティティ育成については、教員はその重要性を意識しつつも、その意識を実際の教育活動で具現化することは、相対的に難しいことが考えられる。

（ii）日本人としてのアイデンティティ育成の意義

「伝統と文化を尊重する心を育成することの意義」では、最も多いものが「日本文化の維持発展」、次いで「日本人としての意識の醸成」、「地域社会への発展」へと続いた。これらの傾向は「我が国や郷土、共に生きる人々」に関しても同様に見られた。

このことから教員が感じる日本人としてのアイデンティティ育成の意義は、日本文化を尊重することや、日本人として意識、地域社会の発展など、我が国をよりよく発展させていくことや、日本人としての意識を醸成することへの割合が大きいことが伺える。

（iii）日本人としてのアイデンティティを育成する教科等について

「伝統や文化を尊重する心を育む教科等」に関しては、国語科、社会科、生活科、道徳の時間、総合的な学習の時間が相対的に多い結果が得られた。「我が国や郷土、共に生きる人々への愛情を育む教科等」においても同様の結果が得られている。

なお、国語科は伝統と文化を尊重する心及び我が国や郷土、共に生きる人々を愛する心の両面を育てていくものであるが、教科の性格から、伝統と文化への学習に比重が置かれている。そこで本調査における国語科の結果を見ると、こちらも伝統と文化を尊重する心の方が若干高い数値になっている。

４．考察

これらの結果を踏まえて、日本人としてのアイデンティティ育成に関する子供の実態と教員の意識及び日本人としてのアイデンティティを育成する学習に関する留意事項を整理すると、以下のようにまとめられる。

第一として、自尊感情と家族や近所から大切にされている意識の相関から、子供が一方的に郷土や我が国への思いや愛着を深めるのではなく、子供が郷土や我が国から愛され、大切にされていることを認識させることが挙げられる。例えば下学年において、これまで大切にされ、育まれてきた自分を振り返ることや、上学年においては自分が郷土や国家の形成者として期待され、これからも大切にされていくであろうことを自覚させる学習などが考えられる。そのような学習により、子供は社会における自己認識を深めていくだろう。

第二として、自尊感情と日本人としてのアイデンティティに関する項目の相関から、社会への理解と認識を深め、その関わりの中で、適切な自尊感情を育んでいくことが考えられる。例えば授業において、郷土や我が国をただの学習対象をするのではなく、自分と深い関わりがあり、自分を支えるものであることを自覚させるなど、自己と郷土及び我が国を結び付けるような学習を創出することが必要である。

第三として、伝統と文化に関する項目と、我が国と郷土、共に生きる人々に関する項目の相関から、日本人としてのアイデンティティを育成する際には、縦の糸である伝統と文化を尊重する心と、横の糸である我が国や郷土と共に生きる人々への愛する心に関する学習を分けて考えるのではなく、一体として育てていくことが重要であることが考えられる。

第四はH市（郷土）と我が国への子供の所属意識の差から、郷土への学習を意識することである。生活科及び社会科などを通した学習では、その内容が郷土から始まり、都道府県、我が国、世界と広がっていくのだが、子供の認識では我が国への意識の方が強まっていることが読みとれた。学習が進み、その対象が広がっても、郷土への意識や思いについての指導を継続してくことの重要性を、この結果は示している。自分の町や自治体については中学年で学習して終わりとするのではなく、学年が上がっても教師が意識して子供に

指導するなど、その思いを高めていくことが重要である。

以上は子供の調査結果から見えてきたことである。教員の調査結果を考察すると、以下の三点が考えられる。

第一は、教員は日本人としてのアイデンティティを育成することの重要性を認識していても、必ずしもその認識が実践に生かされていないことである。この問題を解決するためには、特別な学習を用いたり、大がかりな仕掛けを用いたりしなくても実現できるような、学習プログラムを創出することが有効である。教員の取り組みやすさを意識して、日本人としてのアイデンティティを育成する学習を構成する必要がある。

第二は、日本をよりよく発展させることや日本人としての意識を醸成することへの意義を、教員が実感できていることである。この結果は、日本人としてのアイデンティティ育成に関して、その推進の大きな強みになり得るだろう。

第三は日本人としてのアイデンティティをどの教科等で育成してくかが、概ね教員に理解されていることである。これは、学習指導要領や教科書、副読本、教員の力量など、様々な要因によるものであろう。ここから、日本人としてのアイデンティティを育成する土台が確立されてきていることや、もしくは、すでにその学習が推進されていることが推察できる。本研究はその志向性をさらに強めることを目標にしている。

５．参考文献

○中央教育審議会『新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について（中間報告）』2002 年

○山田剛史、村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房、2004 年

○山田光哉『心理・教育のための統計法〈第３版〉』サイエンス社、2009 年